

# 教育広報

# いるま

第46号

平成19年10月

題字：教育長 村野 志朗  
編集：教育広報いるま編集委員会  
発行：入間市教育委員会学校教育課  
電話 04-2964-1111(内4145)



## 最っ高のホームラン

扇小学校 六年

篠原 千優

カキーン。

白い点が見えなくなるまで  
のびていく。

一塁、二塁、三塁、

周りの声など何も聞こえない。

うれしさでいっぱいだ。

最後のベースを踏んだ。

とても、とても、

すがすがしい。

きびしい練習にたえた。

大きな、大きな成果だ。

必ず結果が出ると

ずっと信じ頑張った。

今、その結果が出たしゅんかん。

人生最初のホームラン。

最高のホームラン。





Ⅱ 学校での食育の推進 Ⅱ

肥満、生活習慣病の増加・朝食欠食など「食」に係わる健康課題が生じています。

このような中、平成十七年七月、食育基本法が施行され、同年三月には、平成十八年度から五年間の食育推進基本計画が策定されました。

心身共に健康な児童生徒の育成には、各学校における食育の推進が重要な課題であります。

各学校での取り組み

各学校では、指導計画を作成し、授業を実践するなどして食育の推進にあたっています。具体的には、次のような取り組みをしています。

児童生徒への指導

一 全体指導計画や年間指導計画の作成

食に関する指導は、特定の教科だけの指導ですむものではありません。教科はもちろん、その他の全ての教育活動の中で計画的になされるものです。学校では全体計画や年間指導計画等に沿って教育活動を実践しています。

小学校第3学年 「食を考えよう」学習指導計画例（一部抜粋）

体……体の健康 心……心の健康 社……社会性の涵養 自……自己管理能力の育成

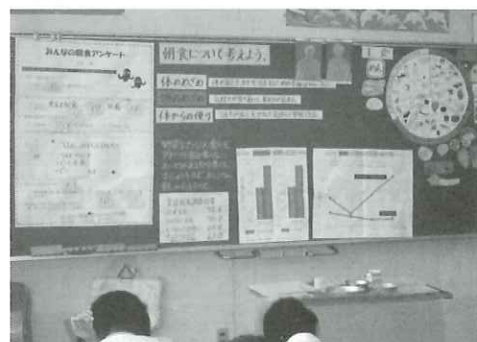
国語	「単元・題材名」・食に関する学習指導	児童の活動	観 点				備 考
			体	心	社	自	
	「食べ物がかせになるう」 (2時間) ①調べたい食べ物を決め調べる方法を知る。	①調べたい食べ物を決める。 ②調べたい食べ物について知りたいことや疑問に思うことを書き出していく。			○		学習カード
	「すがたをかえる大豆」 (4時間) ①大豆を使った食品 ・大豆をその形のままいったり、煮たりして、やわらかく、おいしくするくふう ・大豆をこなひいて食べるくふう ・大豆にふくまれる大切な栄養だけを取り出して、ちがう食品にするくふう ・目に見えない小さな生物の力をかりて、大豆をちがう食品にするくふう ②文章全体の大きなまとまりを理解し、説明文を書けるようにする ・「初め」…私たちが知っている大豆 ・「終わり」…多くの食べ方が考えられた理由と筆者の感想 ・「中」…説明する物の提示	①大豆の実物に触り身の回りにある大豆について予想する。 ②教材文を使い、大豆をおいしく食べる工夫と食品を大豆に手を加えるときの言葉や書き出しに注意して、整理する。 ③「初め」「終わり」「中」を見つけ、書かれていることを確認する。  単元のまとめ ・食べ物について書かれた読み物や図鑑を読んでみよう			○		大豆 大豆食品 学習カード
	「食べ物がかせになるう」(本作り) (11時間) ①取材メモから、図書資料で調べて構成メモを作成し、短い文章に書き表す ②一冊の本にまとめる	①調べたい食べ物について情報を集め、文章にする。 ②本作りをする。  単元のまとめ ・身近な食べ物について情報を収集し、みんなに紹介しよう			○	○	学習カード 原稿用紙 画用紙
社会	『わたしたちのくらしと人々のしごと』 「農家のしごと」 (13時間) ①茶農家 ・入間市の特産品「狭山茶」 ・茶農家のしごと ・お茶の葉がせい品になるまで	①茶畑の広がり調べる。 ②茶畑や茶農家に見学に行く。 ③茶の木を育てる仕事をまとめる。 ④製品になるまでの工程を調べる。 ⑤よいお茶を作る工夫や努力を調べる。 ⑥お茶の他に作られている作物を調べる。			○	○	茶畑の写真 茶農家の写真 仕事ごよみ 製造工程図

指導計画の例



栄養士さんによる授業

二 授業における指導  
家庭科や学級活動などにおいて、食べることの役割や大切さ、栄養のバランスを考えた食事、朝食の役割などについて指導しています。特に朝食を食べないと、体力的にがんばりがきかないだけでなく、脳のはたらきにも影響があることを指導しています。時には担任と栄養士が協力して指導することもあります。



食育の授業の様子

三 給食時の指導  
給食指導の際に、好き嫌いなく食べることやバランスよく食べることの大切さなどを指導しています。給食は単に空腹を満たすという時間ではなく、教科等で学習したことを実践を通して更に学ぶ場でもあります。

四 校内への掲示

栄養士が廊下に給食コーナーなどを設けて、給食に関する豆知識を知らせたりしています。また、給食週間などの際には給食委員会の児童生徒がポスターなどを作成して、食への意識を高めるようにしています。

家庭への働きかけ

食べることの中心は家庭に大きなウエートがあります。従って、食育の推進には、家庭への働きかけが不可欠です。学校では次のような取り組みをしています。  
一 学校だよりや給食だよりによる働きかけ  
二 保護者会や家庭教育学級などを開催しての働きかけ



# 人間の風土に合った 教育行政の推進に全力で

入間市教育委員会

教育長 村野志朗



四月二日付けで教育長を拝命した村野志朗と申します。

今教育界は、昨年十二月に六十年ぶりの教育基本法の改正・そして、その理念を具現すべく教育三法案の国会での可決等、教育改革が加速していますが、私は入間市の教育長として、この入間の風土にあった人間の教育行政を全力で推進して参りたいと考えています。

具体的には、入間市の標榜している、「香り豊かな緑の文化都市・人・街・自然が生きてきた元気な入間」このことを踏まえて、入間市教育委員会としては「豊かな人間性の育成を図

ってまいりたい」と考えています。私の考える豊かな人間性とは、  
①人間を愛する心  
②学ぶ喜び  
③思いやりの心  
④健やかな体

この4つの総体であります。

とりわけ、学校教育の分野では、地域の教材・人材や郷土芸能等の地域の文化を活用し、学校・家庭・地域が一体となり、地域に根ざした特色ある学校教育を通して『生きる力』を育てていきたいと思っております。

また、ゆとり教育の見直しなど、教育再生議論の中で、学校活性化の方策として二学期制度・民間校長・学区の自由化等に踏み切る自治体もでてきていますが、私は入間市の学校教育の現状からみて、制度を変えることより教育の本質である教師の質的向上に全力で取り組みます。

私は、『よき教育は、よき教師

### 教育委員会の取り組み

市教育委員会としては、各学校における食育推進の支援に向け、次の取り組みをしています。

#### 全小学校への栄養士の配置

学校栄養士は、県の教職員定数では市内十六校のうち十校にしか配置できません。入間市では、他の六校については市費で学校栄養士を配置し、各校の食育推進を支援しています。

#### 教育課程検討委員会における研究

教育課程検討委員会では、「食育の推進」をテーマとして研究に

取り組みました。

研究内容は、次の四つです。

- ①食育の全体計画・年間計画の紹介
- ②実践例の紹介
- ③家庭へのはたらきかけのための資料紹介
- ④食の実態調査

実際の授業で活用できるような実践例や資料の紹介に努め、研究成果は、冊子にまとめ、各小中学校へ配布しました。

食育は子ども達の生涯にわたる健康や、学力・体力を身につけるための基礎でもあります。今後も各学校の食育推進を支援してまいります。

## 食育だより

毎月19日は「食育の日」

— 食生活から心や体の健康を考えよう —

### 防ぎたい「こしょく」

服部栄養専門学校長が基調講演を行った記事が7月17日に記載されていたので要約して紹介します。

- 「こしょく」という言葉は色々な意味がある。
- 「孤食」は一人で寂しく食べること。親が好きな物を食べさせている状態だ。放っておいてはいけない。
- 「個食」は、一緒にいながら父親はカレー、母親はスパゲティ、子供はピザという食事。テレビも消さず好きな物や柔らかい物しか与えないとワガママで協調性のないキラやすい子供になる。
- 「固食」は、同じ物しか食べないこと。
- 「小食」は、食が細いこと。激やせのままでは30代までに女性としての機能を失ってしまう。
- 「粉食」は、高たんぱく高脂肪などパン中心の外国食のことだ。腸の長い日本人の体は時間をかけて食物を吸収するシステムが組み込まれているので、糖尿病になりやすい。

食育の柱のひとつは、どんなものを食べたら安全か、健康になれるかという選食能力を身につけることだ。

(家庭への便りから)

# いつも元気な新久っ子

新久小学校 内野 隆好

本校は昭和五十六年に開校し、今年二十七年目を迎える児童数三百七名の学校です。周りは茶畑一色で、子どもたちは静かな環境で明るく元気に学校生活を送っています。

## 地域の特色を生かしたお茶学習

本校では、狭山茶とふれ合う体験学習の充実を掲げ、全校でお茶に関する学習を進めています。

七月には全校で茶摘みをしました。加工していただいたお茶は、一人一袋持ち帰り、家族と味わいました。

三年生は、その日に摘んだ葉を手揉み茶にし、試飲をしました。四年生は九月に「ほいろ」で手揉みをし、昔ながらの製法でお茶にしました。全校に配布するのも伝統です。

また、地域のお茶のコーナー「ネイター」からお茶の歴史についても学びます。



楽しいお茶摘み

## 自ら学ぶ子の育成

指導の重点・努力点として基礎基本の確実な定着を図る授業の実践をしています。

本年度は「算数科」で考える力を育てる指導法の研究を進めています。特にしっかりと話を聞く力、自分で考える力、学んだことを人に伝える力、活用する力等を常に意識し

た授業の展開を図り、自ら学ぶ子の育成へとつなげています。

## 豊かな心が

## 育つように

本校では豊かな心の育成として、朝の読書活動の充実を図っています。

毎週月曜日の朝の「読書タイム」には、各教室から保護者の方々の素敵な読み聞かせの音が響いてきます。本年度、一年から六年まで広げることができました。現在二十六名の保護者の方が登録しています。ほかに図書室の環境整備、本の整理貸し出し等に、ご協力をいただいております。



今日はどんなお話かな

# 生きる力みなぎる あずっ子

東町小学校長 小島 明

本校は彩の森公園に隣接する、開校二十七年目、児童数五百八十七名の規模校です。

## 児童の伝え合う力を高める教育を推進

昨年度から入間市教育委員会や埼玉県国語教育研究会等の委嘱を受け、「生きる力みなぎるあずっ子」 「話す・聞く」活動で伝え合う力を育てるのテーマで国語科の研究を進めています。



授業風景

「よい聞き手がよい話し手を育てる」を合言葉に、「あずっ子すいすいメモ」を活用し、よい聞き手を育てることによって伝え合う力の育成を目指しています。

本年度の十一月九日には、研究発表会を予定しています。

## アルミ缶リサイクル活動で、一人一鉢花づくり

児童や保護者がアルミ缶を回収して、換金した資金で一人一鉢の花を育てています。

自然環境を守るリサイクルの活動を学ぶとともに、花いっぱい美しい学校環境をつくり、自然を愛する豊かな心を育むことがねらいです。育てた花は、卒業式や入学式の式場も飾っています。

## 青空給食・なかよし集会

隣接した「彩の森入間公園」を利用し、異年齢集団で給食を食べています。家から持ってきたお弁当箱に給食を詰めて青空の下、レジャーシートを敷いて、皆で食べる給食の味はまた格別です。



みんなで食べるおいしい給食

また、引き続いている「なかよし集会」では、縦割りの班ごとに考えた「だるまさんがころんだ」や「ドロケイ」などのゲームで楽しく遊び、お互いを思いやる豊かな心を育んでいます。

紹介

はこちらです

東町小学校



上藤沢中学校



# 「当たり前」から「新たな創造」 を目指す生徒の育成

東金子中学校長 内藤 定芳

本校は今年、開校二十五年目を迎えました。本年度の学校教育目標である「自ら学ぶ生徒」「思いやりのある生徒」「やりぬく生徒」を目指して、三百八十四名の生徒たちは、明るくのびのびと学校生活を過ごしています。

## ステップアップ トライアル

教育に関する三つの達成目標の具体的な取組として、学力・生活・体力の向上での活動を幾つか紹介します。

朝は全校一斉の読書から始まります。読書マイレージにより、始業前十分間は本と向き合う沈黙の時間です。

チャイムは、一日に三回だけ鳴ります。朝は出席確認時、昼は午後

始業五分前、そして最終下校時刻です。また、授業時は全校でタイム着席の徹底に取り組んでいます。



授業風景

ステップアップタイムの漢字テストへの挑戦や、授業中での計算等の小テストの時間を設け、基礎学力の定着を目指しています。

体力向上は体育の授業ばかりでなく、部活動や体育的行事等とおして全校規模で取り組んでいます。

## チャレンジ・ザ・BUKATSU

本校では毎年、部活動の生徒と保護者との交流行事が開催されます。PTAが主催するこの行事も今年で十回目を迎えます。

運動部では親と子が対戦する交流試合をし、文化部では日常の活動を一緒に体験します。日頃、学校での子どもの活動の姿を見る機会が少ないお父さんたちも大勢参加し、それぞれの部で心地よい汗を流しました。



親子の交流試合

活動終了後は、お父さんが焼いたソーセージやお母さんによる手作りカレーが、五百人の参加者全員にふるまわれました。

学校

今回の学校

東金子中学校  
★  
★  
★  
新久小学校

# さまざまな活動を通して 心豊かなたくましい 生徒の育成

上藤沢中学校長 古藤 成一

## 「和敬清寂」を指針

本校は、茶畑に囲まれ、校舎のまわりの木や草の葉や花を眺め、季節の變化を実感できるすばらしい環境の中にあります。千利休の唱えた茶道の根本精神である「和敬清寂」を校訓としています。「和」は仲良く、「敬」は敬あい、「清」は心の清らかさ、「寂」はどんなときでも動じない心、という意味です。このような心を目標に、また日常の生活における指針としています。

## 全校生徒で 茶摘み体験

本校には、お借りしているものですが二枚の茶畑があります。毎年五月には全校生徒による茶摘みを行っています。今年



全校生徒による茶摘み

度は、五月七日に行いました。気候にも恵まれ茶葉の生育がたいへんよく、収穫量としては昨年の倍以上でした。近所の製茶工場で製茶をしていただき、生徒会の生徒が中心となって袋詰めをしました。袋詰めされた新茶は生徒全員が家に持ち帰り味わうとともに前浜中学校にも送りました。郷土の文化を身をもって体験することは貴重なことだと実感しています。

## 前浜中学校との 姉妹都市交流会



心温まる交流

入間市と佐渡市の姉妹都市交流の一環として本校でも前浜中学校との交流会を行っています。昨年度は、八月に佐渡市を訪問させていただきました。前浜中の生徒との交流会では、お互いの学校の特徴を披露したり、一緒に魚釣りや海水浴をしたりして親交を深めました。また、地元の人たちによる「佐渡おけさ」「鬼太鼓」「春駒(はりこま)」などの郷土芸能では、当地でなければ味わえないような貴重な体験ができました。今年を迎える側なので入間市の良さを十分に紹介し、心温まる交流をしたいです。

# 地域に根ざした 福祉の実践に向けて

## 入間市社会福祉協議会

入間市社会福祉協議会（通称：社協）では、誰もが安心して暮らすことのできる、心ふれあう「福祉のまちづくり」を目指す民間団体として、各種福祉事業を行っています。ボランティア活動への理解及び参加を促進するために、入間市ボランティアセンターを設置し、各関係機関と連携しております。

教育関係者のネットワークづくりを推進するために教職員対象の連絡会議を開催しています。平成十四～十六年度は、当事者の方、福祉施設、地域のボランティアと合同の研修会も行いました。ここ数年は、年度始めに、地域の支援体制についての情報提供（社協・ボランティアセンターの紹介）及び、実技体験（車いす・アイマスク・点訳・高齢者疑似体験・知的障害体験）を行っています。

平成十九年度は、新久小学校六年生の「総合的な学習の時間」の取組についての事例発表と、グループに分かれての情報交換の時間を作り、社協職員も一緒に参加しました。短い時間ではありましたが日頃の取組みや方法などの意見交換ができました。

各小・中学校の「総合的な学習の時間」で「福祉分野」に関する取組についても支援を行っています。地域のゲストティーチャーの紹介、福祉備品の貸し出し、授業の内容について一緒に考えるお手伝いをしています。「共に生きる力」を育む取り組みに参加しております。

### ①市内小中学校・高等学校

#### 福祉教育担当職員連絡会議の開催

平成十二年度より、埼玉県社協の「ボランティア体験学習事業補助金」を受け、地域の福祉

### ②福祉体験を支える ゲストティーチャー

「総合的な学習の時間」が始

まった平成十四年度から比べると、「福祉」をテーマに取り上げる学校数が増え変化してきました。取組方法は地域性があります。が、年間を通じてかわる学校においては子どもたちも変化してきています。当事者団体や、ボランティアグループの方が学校の福祉体験を支えており、子どもたちとの出会いから「元気」をもたらしています。社協では、子どもたちが地域の人と出会うチャンスとして、福祉体験におけるゲストティーチャーを大切にコーディネートしていくことを心がけていきたいと思っています。



▲グループに分かれて「高齢者疑似体験」中

▼新久小学校6年

「車いすわくわくクイズ」の様子



## 不登校を未然に 防ぐ取組

本市では、「不登校を未然に防ぐこと」をテーマに総合的な不登校対策に取り組んでいます。保護者や教員を対象とした講演会も行い、大学教授や臨床心理士から貴重なお話を聞く機会もつくつています。そこで学んだ一端を紹介します。

### ①不登校とは

登校の意志と義務感を持ち、本人なりに努力しているが、心理・教育的な援助を必要とする症状を指す。怠学・非行とは違う。

### ②不登校の質は変わってきた

今の子はあつという間に不登校になってしまふ。原因がはっきりしない。誰もがなる可能性がある。

### ③学校に行けない子

- ・ それぞれの理由がある
- ・ 自己概念が育っていない
- ・ 自己を見る目が育っていない
- ・ ハードルを乗り越えてきて

- ・ いない
- ・ 親が子育てに自信をもっていない
- ・ 次のステップに行こうとしない

### ④不登校の子へのかかり方

- ・ 本人の苦しみを理解する
- ・ 話を聞く姿勢をもつ
- ・ 学校の様子を知る
- ・ 相談機関を積極的に利用する
- ・ 不登校になっても、生活リズムを崩さない
- 例 起きてこなくても朝食は七時。昼食は十二時

入間市は、不登校になり学校復帰を目指す子のために「ひばり教室」を設置しています。また、電話での教育相談も受け付けています。

（共に296417830）

不登校を出さないために、学校も家庭も地域も、子どもにとって安心できる場所でありたいものです。また、多くの温かい目で子どもたちを見守る環境づくりに心がけたいものです。



# 学校自慢

## 加治丘陵地域の 自然・人・文化・歴史から学ぶ

東金子小学校

○歴史から：本校は、東金子村尋常小学校として龍円寺に開校し、今年で百十九年を迎えました。校庭では、樹齢約百八十年の「楠」や二宮金次郎さんの像が子どもたちを見守っています。

○自然から：平成十五年に校舎西側にビオトープが完成し、鶯が鳴き、蝶・甲虫・蛙が住みついています。また子どもたちは、加治丘陵探検を体験し、肌で自然に触れ、四季折々の発見や感動に目を輝かせています。

○文化産業から：校地内の水田での稲作体験、椎茸栽培、茶摘み・手揉み茶づくりの体験などが地域の方の指導と協力のもとで実施されています。

○人から：環境保全活動では加治丘陵の間伐体験を実施し、キヤリア教育の一環として地域で活躍している方の講演会を実施しています。

このように本校では、地域の方々の思いが込められた歴史や伝統を学んでいます。



## 西武小の「宝」を大切に

西武小学校

ぼくたちの学校は、目の前に入間川と加治丘陵がある自然に恵まれた学校です。児童数が多けれど校庭ではたくさんの子どもの声が元気に遊んでいます。西武小の宝は「あいさつ」で誰にでも元気にあいさつができます。

今年、みんなが安全に学校生活を送れるように「廊下歩行運動」に取り組みました。児童会で全校に呼びかけ、みんなが注意し合いながら生活しています。しっかりと守れたクラスには賞状を渡します。



(六年 築瀬 亨)

秋になると、一年から六年が協力してお店を出す「子ども祭」があります。いつもは触れ合うことのできない他学年の子と遊ぶことができ、楽しいです。

(六年 築瀬 亨)

## より心温まる学校をめざして

藤沢東小学校

本校は学校内のいろいろなところに植物を育てています。四季折々の花は児童を優しく迎えます。児童の心も優しくきれいになることと思います。



花いっぱいにするには手入れが肝心です。栽培委員会の児童が中心になって毎回頑張っています。土作りや、種をまいたり、苗を植えたり、草取りをしたりと大忙しです。児童自らも「花を大切にしてください」の立て札を作って大事にしています。

また、最近では校地内の樹木も手入れをし、剪定、伐採、消毒を行いました。大変な作業です。これには地域のボランティアの方にぜひご協力ください。感謝しています。

本校は、多くの方の好意により、よい環境の中で学校生活を送ることができています。



## 茶畑の緑の中、地域に支えられ、生徒の学ぶ意欲に込める

金子中学校

金子中学校は狭山茶生産の中心地にあり、地域の多くの皆様に支えられた伝統校です。



1. 毎年冬には市の手もみ狭山茶保存会と青少年健全育成推進会のご協力を得て「手もみ茶体験」を行い、多くの生徒が参加します。各学年生徒と地域の交流会や全卒業生が参加する「普通救命講習会」等体験的な学習も盛んです。

2. すべての生徒に学力を保障する取組として「博士検定」を全校生徒を対象に年六回実施しています。これは埼玉県の「教育に関する三つの達成目標」中の学力保障を指した取組で国数英の三教科について行われています。さらに意欲的に学びたい生徒のためには、希望者を対象に漢字・数学・英語・歴史の四種の検定を土、日曜日や長期休業中等に実施しています。



## 「挨拶が飛び交う学校」

藤沢中学校

藤沢中学校の自慢は「挨拶」です。毎週始めと週末に挨拶運動を行っていましたが、それは挨拶の増進にはならない、と考えた末、いつでもどこでも挨拶ができるようにしようと日々の挨拶に取り組んできました。以前の挨拶運動では得られなかったものが、毎日の挨拶を見直すことで今まで以上に挨拶の飛び交う学校になりました。

また、お年寄りの方たちとの交流も活発です。年に三回老人養護施設の訪問を行っています。それぞれ毎年違った企画を作って取り組みたくさんのお年寄りとお触れ合っています。体育祭などの行事にもお招きして、活発な交流を行っています。



清掃活動・授業への真剣な取り組み「当たり前」が当たり前で「できる」ことも本校の自慢です。

(三年 阿部 凌那)

# ぐんまにゆうす

## わんぱく相撲入間大会 悲願の総合優勝

豊岡小学校

六月十日(日)「第十三回わんぱく相撲入間大会」で豊岡小学校が団体総合優勝を成し遂げ貴乃花親方から子どもたちに直に優勝旗の『貴鷲旗』が手渡されました。

これまでの大会でもよく健闘し、上位に多数入賞してきましたが優勝には届きませんでした。今年は百名を越える子どもたちが参加し、公式練習以外でも休み時間や昼休みに体育館で練習し、力をつけました。

大会当日は、その成果を遺憾なく発揮し、個人戦で優勝一人準優勝二人、三位三人、そして団体では優勝三チーム、準優勝三チーム、三位一チームと素晴らしい成績をあげることができました。  
相撲は日本の国技でもありません。『礼に始まり礼に終わる』

本校の豆力士たちは、相撲で学んだことを形に現せるようになりました。



優勝旗を手に

## 第四十一回交通安全子供自転車埼玉県大会参加

藤沢北小学校

第四十一回交通安全子供自転車埼玉県大会が、七月七日熊谷ドームにおいて「埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、埼玉県交通安全協会」主催で開催されました。狭山警察署・入間市生

活安全課より本校児童に対し大会参加依頼があり、六年生十二名の参加希望者の中から四名が選考され大会に参加しました。ほぼ一ヶ月間、放課後毎日練習を続けました。

大会では学科と実技の審査があり総合点で順位が決まります。午前、信号のある十字路や踏切等の安全走行テスト。午後、狭い幅の道十メートルを二十五秒以上かける遅乗りや八本のピンを間をジグザグに縫って走る技能走行テストがあり、埼玉県内から選ばれた四十一団体二百名が一日かけて競いました。

最終結果、本校は十三位でした。長いことご指導いただいた狭山警察署の方・市生活安全課の方・交通指導員さんたちから「狭山警察署管内のこれまでに参加した学校の中では一番の高成績でした。」とほめていただきました。



さあ、スタート

## 感動を与えた 校内朗読会

仏子小学校

五月二十六日(土)は、土曜参観日。その四校時は校内朗読会でした。この朗読会は十四年間続いており、本校の伝統となる取組です。当日は、約五百人の保護者の参加があり、参加者全員に感動を与えるものとなりました。



お祭り

- 一年生：あいうえお・ん
- 二年生：ふきのとう
- 三年生：わたしと小鳥とすずと他
- 四年生：めだかおどり、竹のように
- 五年生：ほのお、となりの客はよく柿食う客だ
- 六年生：お祭り

それぞれの学年の朗読が終わるごとに割れんばかりの拍手が体育館いっぱいになり、感動の嵐となりました。  
みんなで力を合わせて協力し合いながら何かに取り組む、そんな体験が今の子どもたちには必要ではないでしょうか。今後も更に朗読力を高め、市内に広がる朗読会を目指していきたいと思っております。

## 編集後記

記録に残る猛暑の夏が終わりに充ちた教育活動を展開するのにより季節となりました。今回の教育広報では、「食育の推進」を掲載しました。心身共に健康な児童生徒の育成には、食育の推進は不可欠であり、教育委員会・学校での取り組み状況を紹介しました。広報発行にあたり、執筆等ご協力いただきました方々に心より感謝申し上げます。

